

坂の民話 ⑧ 天狗のしわざ

子どものころ、誰いうとはなしに、2、3人がわらびを採りに行こうや、といって、がやがやいいながら、わらびの多い「すどこ」の奥深く入りこんだ。

そこは、昔から天狗が住んでいるという話を聞かされていた。こわがって寄りつかないためか、軸の太いまだ開きかけのわらびがたくさんあった。またたくまに、手に持ちきれないほどのわらびを採った。夢中で採っているうちに、道がわからなくなった。みんな得手わけをして道を探しておったら、茂った木のためか、だんだん薄暗くなってきた。

その時、鶯が「ホーホケキョ」と鳴くと同時に、上の方から木の折れる音と、枝を振るような音がした。お互いがものもいわず、顔を見あわせて寄りあっていた。

一息して、また「ホーホケキョ」と鶯が鳴いたと同時に、前と同じように、木の折れる音と枝を振るような音がした。今度は、皆がものもいわず、我さきに走り、走って畑のあるところまで出てきた。やれやれ、ようようことばが出るようになった。

手に持っていたわらびは、誰も1本もないようになっておった。

家に帰り、親に話すと、
「あそこは昔から天狗が出て、ふきとばされ、けがした者が何人もいるということじゃ。なんぼわらびが多くても、あそこへは行かんほうがええ。」
といわれた。

(昭和62年発行『坂の民話』より)



あたたかい
心のともしび



次の方々から、社会福祉事業資金としてご寄附をいただきました。厚くお礼申し上げます。

(8月受領分・敬称略)

◎香典返し寄附者

熊谷 常照 (横浜中央三丁目)
益田 敏昭 (小屋浦一丁目)
向井 義則 (小屋浦二丁目)

よろこび



おめでとうございます
8月届出分 敬称略

森原 侑来 (平成ヶ浜一丁目)
熊谷 莉央 (横浜中央三丁目)

このコーナーに掲載を希望しない方は、届出のときに申し出てください。

かなしみ

おくやみ申し上げます
8月届出分 敬称略

縫部 輝雄 (89) (坂東二丁目)
吉田 典子 (91) (坂東三丁目)
土井久美子 (80) (坂西三丁目)
前川千代子 (86) (横浜中央二丁目)
門前 綾子 (94) (横浜東一丁目)
岡本 善文 (82) (植田三丁目)
川上 昌子 (80) (植田四丁目)
益田 千晶 (69) (小屋浦一丁目)
中本 明男 (87) (小屋浦二丁目)
山下 俊子 (95) (小屋浦四丁目)

広島県最低賃金は
令和6年10月1日から
時間額 1,020円です。

※9月30日までは、970円です。

今月の休日当番医

診療時間 9時～17時30分

休診時間 13時～14時

日付	坂町・熊野町	府中町	広島市安芸区	海田町
6日 (日)	まきこ眼科クリニック ☎855-6022	白根耳鼻咽喉科 ☎510-3322	村尾皮ふ科クリニック ☎892-4112	津田産婦人科クリニック ☎821-0303
13日 (日)	済生会広島病院 (内科・整形外科) ☎884-2566	すくすくキッズクリニック ☎286-8686	あいクリニック (外科・内科・消化器科) ☎822-0080	菊川皮ふ科医院 ☎823-7111
14日 (月・祝)		みはら内科クリニック ☎286-1177	きむらクリニック (内科・胃腸科・放射線科) ☎820-0522	岸本医院 (眼科) ☎823-6298
20日 (日)	大瀬戸内科 ☎854-8585	天神川なかむら内科 ☎890-0077	金沢内科・循環器科 ☎889-5501	くすおか整形外科クリニック ☎824-0505
27日 (日)	小坂内科医院 ☎885-0108	わたえだ皮膚科クリニック ☎508-1112	安芸市民病院 (内科・外科・小児科) ☎827-0121	山本整形外科病院 ☎822-3000

受診を迷うときは、**#8000こどもの救急電話相談**(平日19時から翌朝8時まで、土日祝17時から翌朝8時まで)、**#7119成人の救急電話相談**(24時間365日)もご利用ください。

今月の納税

口座振替日 10月28日(月)

口座振替の登録をされている方は、口座振替日の前日までに残高の確認をお願いします。

納期限 10月31日(木)

町県民税.....第3期分
国民健康保険税.....第4期分
介護保険料(1号).....第7期分
後期高齢者医療保険料.....第4期分

坂町の人口と世帯

(9月1日現在)

男: 6,053人 (前月比-4)
女: 6,552人 (前月比-6)
計: 12,605人 (前月比-10)
世帯数: 5,854世帯 (前月比-11)

坂町文化協会団体の紹介

第7回

西側獅子舞保存会

毎年10月に行われる八幡山八幡神社秋祭りに寄進する獅子舞は、前を西側が、後ろを上条の獅子が舞い、祭りの最後を飾ります。

西側地区では、祭りの2週間前の土曜日の夜、「はながため」といって、獅子舞と後獅子・太鼓をたたく子供とチャンうちの子供、笛を吹く人や太鼓を担ぐ人等を決め準備に取り掛かります。次週の月曜日から約2週間、每晚師匠の指導により獅子舞の練習を行い、合わせて祭りで使用する道具等の飾りつけの作業をします。途中練習の中間の土曜日には「中見」といって練習の仕上がり具合を皆で確認し、本祭りの前日には西側会館の庭で、地域のの人に舞を披露し本番に備えます。

少子高齢化が進む昨今、出演する人や後継者不足も予測されますが、先人から受け継いだ「獅子舞」を次世代につなぐため、今後とも地域の皆さんの協力のもと、その保存に取り組んでまいります。

